

■（284）記者の原点は変わりません。最終回の宣言です。

新聞との接し方を先生の皆さんにもっと知ってもらいたい。そんな思いからこの欄を始めることにしました。「自らの記者経験も交えて書いていくつもりです」このコラムが2010年9月にスタートしたときの宣言です。それから9年近く。今回は最後です。

思いもよらない東日本大震災が起き、被災地の東北に飛び込みました。1度は東京に引き揚げましたが、再び岩手県釜石市に赴任して、計4年間の駐在でした。記者が何を考え、どう記事にしていたかを、少しでも学校の先生、そして子供たちに知ってもらいたいと、現場の取材の合間にスマートフォンで書いて送信したこともあります。その後も災害を通じて、記者の仕事の重要さを現場から学ぶ日々でした。同時に、この間は新聞の置かれている現実が大きく変化した時期でもあります。現場からはSNSなどインターネットの情報が次々と発信されていきます。新聞どころかテレビも置いて行かれそうです。

あふれる情報をどう整理するかが重要です。メディアは多様化しても、記者の原点は変わりません。「確かな情報を速く伝える」です。それを最終回の宣言とします。（山）